

第75回企画展

農家の暮らしと火

～炊事の火・暖房の火・照明の火～



平成30年1月11日(木)～平成30年3月28日(水)

岩手県立農業ふれあい公園 農業科学博物館

昔は、暮らしの中に常に火が燃えていました。台所の 竈^{かまど} や 囲炉裏^{いろり}、座敷の火鉢^{ひばち}、風呂、ランプや神棚^{かみだな}、仏壇^{ぶつだん}の灯明^{とうみょう}など、家の中のあちこちで火を見ることができたのです。

「囲炉裏の火」は「炊事の火」、「暖房の火」、「照明の火」などを兼ねており、囲炉裏端は一家の「食事の場」「休息・団欒^{だんらん}の場」、「夜なべ仕事の場」でもありました。また、時には「来客対応の場」ともなるなど、囲炉裏を中心に据えた暮らしをしてきました。

この「囲炉裏の火」が、生活様式の変化とともに炊事用、暖房用、照明用などに、それぞれの機能が分離し、より便利なものに進化・発展してきました。

今回の企画展では、江戸時代から昭和30年頃まで使われていた「炊事」、「暖房」、「照明」道具を紹介します。



置行灯^{あんどん}



炬燵^{たこ}



火打ち箱



秉燭^{ほよう}



箱火鉢



自在鉤^{じざいなぎ}

岩手県立農業ふれあい公園
農業科学博物館

北上市飯豊 3-110 TEL:0197-68-3975

開館時間／9:00～16:30(入館は16:00まで)

休館日／月曜日(月曜日が祝日の場合は直後の平日)

入館料／一般300円 学生140円 高校生以下は無料

団体割引等(20名以上)あります

駐車場／大型バス12台 普通車240台 身障者専用5台